

STUDIES
IN THE MOOD OF
THE ENGLISH VERB

BY

ITSUKI HOSOE

動詞叙法の研究

細江逸記著



TAIBUNDO
TOKYO

TO MY
SILENT HELPERS
AT
HOME

小 乎 家
竹 懸 在
櫃 而 人

すべて世にすぐれたる人の言ひ
たる事に委ねて、強ひて心を用
ひずして考へ正さずおきては、
つひに其ひがめるすぢも直らず
してやみぬべきをいゝほしみお
もひてやむこゝなく言へるなり。

鹿持雅澄

序に代へて

Deign on the passing world to turn thine eyes,
And pause awhile from Letters, to be wise.

—*Samuel Johnson.*

此小著は、私が本年八月七日より同十日に亘つて
輕井澤夏期大學に於いて試みた四回講演の原稿を基
とし、更に整理を新たにし、幾多の事項を追加した
もので、茲に諸方面よりの勸説に違つて公けにする
ものである。

顧みれば私が此講演の依頼を受けたのは去三月の
事であつたが、生憎一月以來頗る頑固なる病氣の爲、
日々醫者通ひをして居た私は、萬一責を果すことが
出来ないことがあつてはこの懸念から御斷りをした
のであつた。然し、まだ先の事でもあるから何か
考へて呉れよとの再三の御依頼であつたので、且は
私の病氣も五月になれば癒るこの醫師の豫想もあり、
自分でも春日の如くではあるが、追々輕快を覺ゆる
日もある様になりつゝあつたので、遂に御受けする
ことに決心したのは四月、已に新學年も始まつた後
の事であつた。庶幾したところは、學校の仕事も常
態に歸し、我が病も癒えた時を利用し、五六月の間
に想を練り、多年蒐集の材料を整理し、新しき例をも
集め、以て及ばすながらも依頼に對へんことであつ

た。然るに何事ぞ、五月二日私は突如として他の病魔に襲はれて、未だ曾て経験したことの無い様な苦惱に陥り、それより約三週間は殆んど全く床上に暮して、何事もなし得なかつた。然し、約束は約束であつて東西兩地の距離は遠慮もなしに短縮して來るので、心頗る易からず、多少にても氣分の軽い時には私は横臥のまゝ書を繙いて、然るべき例文に遭遇すれば鉛筆で印を付ける位のことはした。其間に手にした書物は *Phantom Rickshaw*; *Jude the Obscure*; *Buried Alive*; *Minnie Maylow's Story* 等であつた。病氣は幸五月下旬から殆んど不思議な位、加速度的に快方に向つたので追々に仕事を進め、六月十日以後は公務の餘暇は殆んど全部を此仕事の爲に捧げたのであつた。勿論醫者通ひも缺かすことを許さぬ日課であつたので思ふ様な活動は爲し得なかつたのであるが、兎に角七月十五日までには或程度までの案を纏めることが出來たので、或は既集の中から拔出し、或は新たに集めた例文を整理按排して得た提要的のものを作製して會の方へ送り、然る後私はそれに肉を付けて行つたのであるが、折から襲ひ來つた何十年振りとかの酷暑は病軀に堪へ難く、こゝに私は意を決して醫者の手を辭し、身を六甲山頂に運び、そのホテルに泊り込んで原稿の筆を進め、八月二日東上の前日に至つて漸く或程度のものを書き上げたのである。思へば誠に危い藝當ではあつた。私の成した講演が

甚だ意に滿たぬものであつたのはかゝる次第からの事で、關係各位に對して申譯け無く、私自からも頗る遺憾とするのであるが、聽講の諸氏が終始熱心に聽いて下さつたことは私の光榮として感謝に堪へないところである。而して、一冊の書物に纏めて出すことを勧められたのも其頃であつたが、七十九度以上に昇らなかつた輕井澤の清涼は大に私に幸して、私はやうやく以前の如く青空を見上げて喜びを覺え得る身となつたので、講演後も尙十數日其地に滞在して、原稿に思ひ切つた改訂を加へ、月末書齋に歸つてから淨寫に従事し、今やうやく事成つてこれを書肆の手に委ねるわけである。

本書に論ずるところは動詞の叙法であり、説くところはその用途用法である。昨年の時制論に比すれば程度の差こそあれ、私の叙法に關する見方が、從來の學者の見方と違つて居る點の尠くないことは同様である。昨年の小著にも言つた様に、所謂 Tense と Mood とを別箇の存在の如くに見る考へ方は大なる誤りで、此二つは俗言以てこれを言はば一平面上に並べて、その相連り相通する様を達見するまではその何れをも適當に理解することが出来ないことは、私が十數年來抱懷する意見で、淺學慘澹たる私の論述には不充分の箇所もあるであらうし、判斷の妥當ならざる點も多々あるであらうことを虞れるが、此礎論には間違ひの無いことは確信するものである。

その不備の點に關しては、私はいつもさ同じ様に、切に大方の示教を仰ぎたい念願である。

終りに私は、病餘の私を憐んで材料整理の際に多大の助力を與へられ、且貴重なる助言を恵まれた友人、大阪商科大学豫科教授岡本安章氏に對し深厚なる感謝の意を表する。又、校正に關しては磯矢剛君を煩はしたところが多い。茲に記して好意を謝する次第である。

自家主宰常務體
遠外精神發揚會 陸象山

昭和七年十月

細江逸記

凡 例

1. 書中引用の英文には、その殆んど凡てに拙譯を附けた。各種の用例に對するものは、以て我が國語に於ける語法と對照比較して、言語上の諸現象を觀んとする私の平素の態度を批判して載きたい爲(但、§19等に於いては文の性質上我が國語の平常の語法によらず、わざと生硬な直譯法に依つた場合のあることを諒させられたい)で、もとより翻譯の道しるべの爲ではない。

2. 又諸學者の所説の引用に就いては、若し比較的初學に近い人々で、此書を讀んで下さる様な向のあつた場合に便利であらうからその一部の友人の忠言に基づいて附けたものである。

3. 獨佛語など、即ち英語以外の引用文又は參考例には英譯のみを附けて、邦譯は添へなかつた。それは餘りに煩瑣になることをおそれたからである。

4. 古い時代の英語の例文にも現代の英語譯を添へて置いたが、かゝる場合には屢逐語譯にした爲に一種異様な行文となつて居る場合のあることを諒させられたい。又、此場合にも邦譯を附けなかつたのは前項の場合と同じ理由に據るものである。

5. 何れの場合にも譯文は大意を傳ふるを旨とし、必しも原文の措辭語法に拘泥することをしなかつた。要を收むれば則ち足るまいふ考へからである。

6. 書中、特に第五章に於いて“Present Tense”; “Past Tense”等とあるのは叙實法に屬するものを指し、“Present”

Form; "Past" Form 等があるのは叙想法に属するものを示す。凡て“ ”を附けたのは「所謂」を冠したのと同じ意味である。此處置は、昨年の小著にも明かにした様に、古くから一般に用ひられて居る術語を棄てる必要は無いが、その名をこれまで通りに解釋してはならないといふ考へから採つたものである。

目 次

第一章 叙法概説

Section	Page
1. Mood.—modus—mōd	1
2. 二つの世界	3
3. 言語の變遷	5
4. Jespersen と Sonnenschein	8
5. Deutschbein	11
6. 近世英語に於ける叙法の區別	13

第二章 印歐語に於ける叙法の歴史概観

7. 印歐祖語、及び古語に於ける叙法	15
8. Subjunctive と Optative. — Delbrück — Goodwin — Giles — Bréal	16

第三章 英語の叙法

9. 種類.—Indicative, Subjunctive, Imperative—Conditional —Potential	22
10. Indicative Mood (叙實法).—Fact Mood	26
11. Subjunctive Mood (叙想法).—Thought Mood—数々の 誤解	29
12. Imperative Mood (命令法).—Will Mood	41

第四章 叙實法

13. “Present Tense” 及び “Present Perfect.”—『直説法』	43
14. “Past Tense.”—『経験回想』・『目睹回想』と『非経験 回想』・『傳承回想』	45

15. “Past Tense”=“Present Tense”と見らるゝ場合. ... 50
 16. “Future Tense.”——shall 及び will ——「む」及び「べし」... 53

第五章 叙想法の用途 及びその動向

17. 序説及び分類. ... 57
 18. 用途一覧. ... 61

第一類 希求の意を藏するもの、 及びその系統

(A) 獨立文又は主文に於いて

19. “Present” Form. ... 63
 20. “Present” Form+主語の構文. ... 71
 21. 獨立遊離の讓歩文句. ... 75
 22. 方言に於ける Come. ... 79
 23. 相當句. ... 81
 24. “Past” Form 及び “Past Perfect” Form. ... 84
 25. 獨立遊離の條件文句. ... 86
 26. 獨立遊離の讓歩文句. ... 88
 27. Would(=wish). ... 90

(B) 從文に於いて

(1) 名詞文句

(a) 願望せらるゝ事柄を表はす文句、
特に “wish” の次、並にこれと等
意の構文に於いて

28. “Present” Form. ... 93
 29. 相當句. ... 95

30. "Past Perfect" Form.	97
31. "Past" Form.	99
32. ...would.	103
33. wished.	104
34. 叙實法.	106

(β) 祈願せらるゝ事柄を表はす
文句に於いて

35. "Present" Form.	111
36. 相當句.	112
37. 叙實法.	114

(γ) 命令せられ、要求せられ、主張せられ
又は提言せられ、忠告せらるゝ事柄
を表はす文句に於いて

38. "Present" Form.	115
39. 相當句(1).	118
40. 相當句(2).	122
41. 叙實法.	124

(δ) 豫戒、用意、配慮の對象を
表はす文句に於いて

42. "Present" Form.	125
43. 相當句(1).	127
44. 相當句(2).	129
45. 叙實法.	130

(2) 形容文句

(ε) 時機を表はす文句に於いて

46. It is time.	132
47. 相當句.	134

48. 叙實法.	134
附 説.	135

(3) 副詞文句

(ㄱ) 條件を表はす文句に於いて

49. 希求と條件との關係——if の語源	140
50. “Present” Form.	142
51. 相當句.	145
52. 叙實法.	150
53. “Past” Form.	154
54. 歸結文句との關係.	164
55. 叙實法.	166
56. “Past Perfect” Form.	170
57. 歸結文句との關係.	175
58. should+不定詞.	177
59. were to+不定詞.	182
60. 叙實法.	186
61. 條件文句の獨立.	187

(ㄴ) 讓歩を表はす文句に於いて

62. (Even) if; (even) though.——“Present” Form——“Past” Form——“Past Perfect” Form——should+不定詞—— were to+不定詞.	189
63. 相當句及び叙實法.	197
64. ever-文句.	200

(ㄷ) 比較を表はす文句に於いて

65. as if 及び as though. —— though の語源 —— “Present Tense” + “Past” Form —— “Present Tense” + “Past	
--	--

Perfect" Form — "Past Tense" + "Past" Form —	
"Past Tense" + "Past Perfect" Form — "Past Tense"	
+should, would, etc. — "Past Perfect Tense" + would,	
might, etc. — "Past Perfect Tense" + "Past" Form	
— "Present Tense" + should, would, etc. — "Future	
Tense" + "Past" Form	205
66. 叙實法.	215
67. as it were.	217
68. as if 文句の獨立.	219
69. than if.	220
70. 叙實法.	223

第二類 豫想の意を藏するもの、 及びその系統

(A) 主文に於いて

71. 歸結文句. — "Past" Form — "Past Perfect" Form...	224
72. had better, best, etc.	229
73. I had almost, said, etc.	232
74. I thought; I had not thought; etc.	233
75. 相當句.	234
76. 歸結文句の獨立.	237

(B) 従文に於いて

(1) 名詞文句

(a) 懸念せらるゝ事柄を表はす文句に於いて

77. lest.	241
78. 相當句及び叙實法.	242

(2) 副詞文句

(β) 目的を表はす文句に於いて

79. (so) (in order) that.	249
80. 相當句.	250
81. lest.—豫想に依る理由	255
82. 相當句.	259
83. for fear.—理由	261

(γ) 時を表はす文句に於いて

84. 將來時.	264
85. 相當句.	268
86. 叙實法.	273

(δ) 結果を表はす文句に於いて

87. 豫想せらるゝ結果.—so...as to—so as+文句	275
--	-----

第三類 何等顯著なる特殊觀念の

認められざるもの

(1) 名詞文句

(α) 疑の意を含む文句に於いて

88. 從屬疑問文.	278
89. 叙實法.	281

(β) 問題提示の文句に於いて

90. 問題提示.	283
91. 相當句.—叙實法との比較	286
92. possible, probable, likely; impossible, improbable, unlikely.	295
93. 叙實法.	300

(2) 副詞文句

(r) 比較を表はす文句に於いて

94. as that 及び than that.	305
餘 説.—場所の文句	308

第六章 命令法

95. 意義及び類別.	312
96. have done; be bathed; etc.	316
97. 主語表出.	317
98. let.—愛蘭方言	322
99. "Subjunctive Present."	325
100. 他の用途.	326
蹴 語	331
